

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「“イケてる農業”の実現なるか」
 - 2) 「小学校の飼育に獣医師が介入」
 - 3) 「異学年交流の場が増加」
-

1) 「“イケてる農業”の実現なるか」

「純粹でまっすぐな心と強い意思・行動力でギャルに対する偏見や考え方を換えよう」と“ギャル革命”を起こすためにモデルや歌手として活躍する傍ら、自ら「シホ有限会社 G-Revo」（現有限会社 SGR）を立ち上げ、「ギャル社長」としてマスコミの注目を浴びた藤田志穂。2008 年末に社長業を引退して名誉会長に就任、現在は自称「旅人」として活動する傍ら、力を入れているのが農業への関わりだ。

現在 23 歳の藤田は、以前から興味を抱いていた「食」に関わっていくために、この度秋田で農業プロジェクト「ノギャル」を始めると発表した。プロジェクトでは、モデル仲間と 3 人で米や野菜を作るほか、渋谷のギャルを集めた農業体験ツアーや“イケてる”農作業着のプロデュースを行うとしている。「若者が農業に興味を持つきっかけを作ることで、農業自体を盛り上げることが今の日本には必要」というこの企画には全国の農家からオファーがあったことを明かし、「ハチ公のふるさとだから」（秋田経済新聞より）との理由で秋田県で行うことを決意したそうだ。

高齢化の進む農業関係者が不況で職を失った人に積極的に PR をする報道が最近多いが、以前から地方の農家が嫁不足という話も多い。そんな中、若者、特に若い女性を農業に取り込むこのプロジェクトが、そうした問題に対して一石を投じることができるか、非常に面白い試みだ。しかも仕掛けるのはフリーターから一気に駆け上がって社長になった藤田志穂。起業の際に事務のバイトで貯めた 150 万円を投じるなど、強い意思と実行力は申し分ない。若い女性のカリスマが仕掛けるこのプロジェクトは、時間はかかるだろうが農業関係者にとっても夢のある行動ではないだろうか。

2) 「小学校の飼育に獣医師が介入」

小学校で獣医師が、小動物の正しい世話の仕方を児童に教える動きが広がっている。大阪府高槻市の小学校では、チャボの飼育に際して、水の交換や餌やりの前後に、消毒入りの水で靴底をすすぎ、薬用石鹸で手を洗う。これは、獣医師の指導で取り入れた消毒方法だ。2002 年度から小学校の飼育相談を無料で行い、割安での診療にも応じている。きっかけは鳥インフルエンザで、飼っていたアヒルや鶏を処分してしまう学校もあったという。しかし、こうした獣医のサポートで必要以上に感染などを恐れずに済むようになった。

学校などで動物の飼育を通じ、命の尊さを学ぶことはとても大切なことであるが、ただ飼うというだけでなく、飼育方法なども正しく学べる機会が持てればより効果的である。子供たちの学ぶチャンスは奪わずに問題に対策をたてることが肝要だ。

3) 「異学年交流の場が増加」

保育園や幼稚園では、年齢の違う子供たちが同じ環境で過ごせるように異年齢が混じるクラス編成を行うところが徐々に広がっている。(縦割り保育とも言われ、一部では古くから実施されてきた)これは、2~3歳違う幼児を同じクラスで1日過ごさせることによって、年上の幼児には思いやりの心が育ち、興味や関心が広がるといったメリットがある。ただし、発達の違いもあるので全面的に異年齢保育を取り入れるのではなく、造形活動などは年齢ごとの課題に取り組んだり、一部に同年齢保育の時間を設けたりといった工夫を凝らす必要もあると言われている。

また、6歳以上の小学生で共働き家庭においては、子供が小学校に通い始めるのをきっかけに親がそれまでの勤めを辞めたり、勤務形態を変更したりしなければならないことが多くなっている。それを防ぐため、小学校での学童保育の参加の増加や、民間企業の放課後事業への加入が増えている。こちらでも、異学年の生徒がひとまとめにされることが多く、年齢の違う生徒たちの交流の場ともなっている。

近年、一人っ子の家庭が増え、コミュニケーション力不足が問題視されるなか注目を集めているようだ。

兄弟姉妹がいないことや近所付き合いが薄れている現代において、学校の授業や塾では身につかないことが多く学べる異学年の交流の場は重要視され、教育の新たな項目の一つともなっている。